

令和六年七月号

《第一三九号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

文月の祭典・行事案内

【月次祭】 九時半

四日(木)

十八日(日)

【崇敬会役員会】

十一時より

社務所二階



【昭和天皇御製】(第二四代)

爆撃にたふれゆく民の上をおもひ
いくさとめけり身はいかならむとも

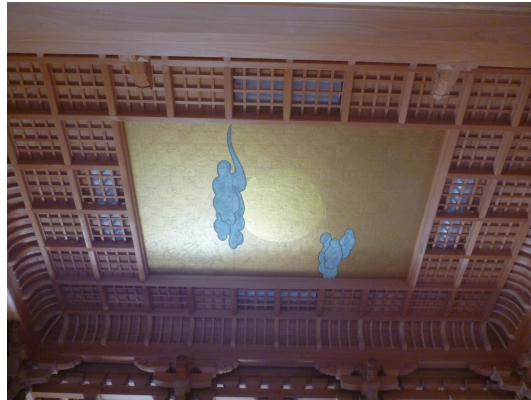
(昭和二十年)

【天井画加筆完了】

当神社十二周年を迎えるにあたり、その記念事業として六月十四日、天井画の制作者である三樹正典教授によつて加筆が行われました。その作業中に度々三樹先生は御神前に拝礼され、将に神々の御声を聴きながら筆と一体となつて終日加筆に集中されました。この新たな天井画に御祭神も喜ばれ、一層の御神威が発揮されるのではないでせうか。

【夏越の大祓】

六月三十日 午後3時



拜殿でないと仰ぎ見ることはできませんが、ご祈願のときか、崇敬会員の方であれば神職に一言あればご案内を致します。ご遠慮なく申しつけてください。仰ぎ見る位置によつて違つて見える不思議な天井画となつてゐます。

上の写真は、拜殿東側から仰いでみた天井画ですが、西側から見ると違つたものが表れてきます。また、朝と夕でも違つたひかりが見られます。

『水無月の夏越の祓

する人は千歳の命

のぶといふなり』の

和歌がよく知られて

ゐますが、この半年

の穢れを祓ひ、後の

半年を平穩に暮らせ

るやう祈念する古代

からの日本人の慣習

です。「人形」に氏

名と生年月日を記し、

当日持参され、大祓

式に参列されれば、

「茅の輪」を授与いたします。上の写真は昨年の大祓式です。



【推薦図書】

『憲法一代記』

育鵬社

『世界195カ国の憲法を研究した私の履歴書』

西修 著 二七五〇円

「・・・私の最大の特色は、実際に連合億総司令部（GHQ）で日本国憲法の原案を作成した8人を含む『歴史の証人たち』47人とインタビューしたこと、米国の国立公文書館をはじめあちらこちらの図書館や研究所、記念館のみならず、英国の国立図書館にまで足をのぼして取得した一次資料を中心とする日本国憲法成立過程の研究と、世界のすべての国々を対象にした比較憲法の探求にあると思っています。そして、しろうと落語家として私の高座

憲法

世界195カ国の憲法を研究した私の履歴書 西修

ネットもない時代にアジア、アフリカ、中東の憲法を日本に紹介、GHQの日本国憲法原案起草メンバーに直撃取材...

東大憲法学におもねらず落語もたしなむ憲法学の泰斗が60年の研究生活を綴る！

育鵬社

一代記



を多くの人たちに楽しんでいただけた経験は、他の憲法学者にないだろうと思います。本書にいくつか挙げたユーモアを楽しんで

いただけたら幸いです。(あとがきより)

『日本を守るため、明日から戦えますか?』

ビジネス社

13歳から考える安全保障

葛城 奈海 著 1650円

「・・・一見平和に見える日本ですが、このように脅威は至る所に存在し、いつ何時平和は破られてもおかしくないということを、私達はまずにんしきしなければなりません。こうした緊急事態に対して、私達にはいっ

葛城 奈海

日本を守るため、

明日から戦えますか?

最凶兵器ミサイルが襲撃されたら、領土が侵略されたら、家族が拉致されたら……

戦いに罪悪感を覚える、逃げ出したい、

13歳から考える安全保障



たいどれば物心の備えがあるでしょうか。「中学生や高校生には関係ない」というかもしれません。でも、考えてみてください。ミサイル攻撃による損害も自然災害も時間や場所、相手を選んでくれません。令和4年2月24日、ロシアが突如ウクライナに侵攻したときも、それを予測していた人はほとんどいませんでした。戦争で犠牲になるのが軍人だけではないことを、みなさんも映像を通じて知っていると思います。また、本書で紹介する横田めぐみさんが北朝鮮に拉致されたのは、13歳のとき、

放課後のバドミントン部の練習を終えて中学校から下校する途中でした。「緊急事態か」は、「明日の自分」に降りかかってくるものではないのです。(はじめにより)

『古事記』中巻 (五十八)

神倭伊波礼毘古命(神武天皇)の東征

布都御魂の剣

神倭伊波礼毘古命は紀国を出てぐりと回つて、熊野村まできたとき、大きな熊がいきなり出てきて消えてしまひました。神倭伊波礼毘古命は熊の毒氣にあたつて氣を失つてしまひました。其の軍勢もみな氣を失ひました。この時、熊野の高倉下といふ男が一振りの剣を持つてきました。そして、氣を失つてゐた天つ神の子に献上しました。すると天つ神の子は目を覺まして『ああ、よく寝てゐたなあ』と言はれました。そして、その剣を受け取ると、それだけで熊野の山の荒ぶる神達は切り倒されてしまひました。眠つてゐた軍勢も皆目覺めました。天つ神の子が『この剣はどこから得たのか』の問ひに、高倉下が答へて言ふには、『私の夢の中に天照大神と高木神のお二人の神が出てこられて建御雷之男神を呼び出されて言はれるには「葦原中国はずいぶん騒々しいやうだが、私の子供も病となつて難儀をしてゐるらしい。そもそも葦原中国はお前が平定してきた国である。降りて行き何とかしなさい」と言はれました。これに對して建御雷之男神が言ふには、「私がわざとわざ降りなくても、あの国を平定したときの剣がありますから、之を降ろすのがいいでせう。この剣を降ろすには、高倉下の倉の屋根に穴を開けて、そこから落とせばすむことで

す。目覺めて爽快な時に之を持つていき天つ神の子に献上すればよい、と高倉下に言へばよい」とお答へになりました。』(続く)

『昭和天皇と岩国』(最終)

大正十五年五月二十八日

昭和天皇が最初に山口県下岩国に行幸されたのは、皇太子殿下の時、摂政の宮をお務め遊ばされた折でした。この時の白蛇にまつわるエピソードがとても印象深く語られてゐます。それは、すべての動植物に御心を寄せられる殿下は、天然記念物に指定(大正十三年)されてゐる白蛇にも関心を示され、自らが白蛇を手に取られ愛でられたといひます。そのときに、手にされた白蛇をお供の皇宮警視に差し出されて『お前もこれを持つてみよ』と申されたが、剣道八段の警視はびつくりし、恐れて手にすることができなかつたさうです。



白蛇を手に取られた昭和天皇がお供の皇宮警視に「これを持て。言われた警視は大変驚いたという。(色紙絵:川崎市・常楽寺(通称マンガ寺)所蔵)

この時、陛下が白蛇をたいそうお氣に召されたことを記憶に留めてゐた旧吉川藩主が、昭和七年に白蛇二頭を陛下に献上したといふ逸話が残されてゐます。

さて、その献上された白蛇のつがひはおそらく皇居の森に放されたことであらう。よつて、とても氣になるのはその子孫が現在も皇居の森に棲息してゐるかです。皇居勤労奉仕団に参加された方が皇居の庭師の方に聞いたところ、白蛇を見たことがあると答へられたさうです。